内子プロジェクト Uchiko Project



地域や活動の概要|歴史的建造物の動的保存

Background | Dynamic preservation of historic buildings

■内子町の概要と本プロジェクトの始まり

愛媛県の内陸に位置する内子町は、内子・五十崎・ 小田という 3 つのエリアが合併して生まれた町であ る。特に内子エリアでは、伝統的建造物群保存地区 である八日市や、歴史的な芝居小屋である内子座な ど、多くの歴史的資源が残り、その保全と活用を主 軸としたまちづくりが盛んに行われてきた。

本プロジェクトは 2017 年度に始動し、同町の歴史的風致維持向上計画(通称歴まち計画)の策定に向けた調査・提案を行ってきた。同計画は 2019 年に策定された。

■本プロジェクトの活動

2019 年度以降は、歴まち計画において事業計画の一つに位置付けられた【歴史的建造物の動的保存】の第一ステップとして、内子・六日市地区の歴史を伝える建築様式を残す貴重な商家である「旧森家住宅」を、「空き町家や古民家の再生のための拠点」として整備・活用すべく、地域住民との議論や、公開・展示イベントなどの試験的活用を重ねている。

▶内子エリア・六日市地区の位置(★)

(伊子市)

(内子・六日市地区の位置(★)

●町並の将来像

▶旧森家住宅の将来イメージ

活動内容|旧森家住宅の段階的な改修と活用

What we have worked on | Phased renovation and use of the Mori

旧森家住宅では、建築や庭空間の段階的な改修にあわせて、社会実験としてのイベントを開催することで、旧森家住宅の知名度の向上を図るとともに、その利活用のポテンシャルを実証してきた。特に 2022 年度は、フェーズ 2・3 における活動を進めた。

■フェーズ2

過去のワークショップなどから、六日市地区において、カフェや休憩場所の需要が見られたことから、試験的に屋台とイス・テーブルを設置し、1 日限定で「庭カフェ」を開催し、約 80 人が来場した。これにより、フェーズ 1 までの「見学する」イベントから、屋外空間を「使う」実証実験へと前進し、本町通りとの関係性についても検討することが出来た。

■フェーズ3

客座敷の畳は、明治期に張り替えられた記録が残るものの、経年の傷みが進んでいた。そこで、畳の修繕・張替を行い、人が集まることのできる屋内空間として生まれ変わった客座敷において、旧森家住宅の整備活用の今後を検討する座談会を行った。

▶旧森家住宅の平面図 ▶本プロジェクトのフェージング



2023.04





今後の展開「六日市地区ビジョン」と運営体制の提案

Future vision | Proposal for "Vision of Muikaichi Area" and operational

■「六日市地区ビジョン」の提案

旧森家住宅での活動を面的に展開するため、六日市地区におけるまちづくりのビジョンを提案する。下図のように、既存の資源を活かしながら、30年後を見据えたライフスタイル・観光スタイルの転換を図るため、地区の目標を定める。そして、目標を実現するための取組として、旧森家住宅などの空き家の利活用の他、商店街である本町通りの使われ方を見直し、景観・交通・商業などの観点から、歩行者優先の空間へと変えていく具体的施策の提案も行う。

■各取組の運営体制の検討

旧森家住宅の前庭や客座敷など、 利活用のポテンシャルを持つ空間は 整備されつつある。そこで、それら の空間を、町民や事業者に貸し出す 仕組みを検討し、実験的に運用する ことで、旧森家住宅に関わる人々の 輪を広げつつ、運営の経済性を検証 していく。そしてこの仕組みを、町 内の公共施設などにも応用していく。

▶内子エリアの歴史的資源の分布図

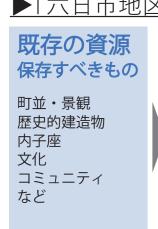


よる屋内空間の整備

実施設計•

本格的な改修

▶「六日市地区ビジョン」の全体像のイメージ(案)



戦略 歩くライフスタイル 歩く観光スタイル

A. 外出する目的の創出
B. 回遊時間・距離の延伸
C. 外出移動手段の変化
(クルマから歩行へ)

プロジェクト 既存の資源の利活用
① 空き家の利活用
② 空き地の利活用
③ 公共施設の利活用

④ 本町通りの歩行者空間化

地区への効果 プロジェクトの効果の実感 1) 経済活性化

2)コミュニティの形成促進3)健康増進4)環境負荷低減

30 年後を見据えて 「歩きたくなるまち六日市」 の整備により 「六日市のファンの増加」 を実現し、 30 年後も生活と観光の拠点として 機能する六日市地区を共創する。

地区の目標